

平成30年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

- 1 学校の教育目標 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成  
 2 本年度の重点目標 探究型学習の推進による学力の向上 いのちの教育と生徒指導の充実 進路指導の充実とキャリア教育の推進 地域連携の促進と郷土愛の醸成 健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり  
 読書習慣の形成と感性教育の推進  
 3 本年度の評価

【評価基準 A達成できた Bほぼ達成できた Cあまり達成できなかった D達成できなかった】

領域	重点目標	具体的目標・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学習指導	<p>【探究型学習の推進による学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。</li> <li>全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。</li> <li>生徒の授業評価による授業改善や研究授業を通じた授業力の向上を図る。</li> <li>ICT機器及び環境を整備し、効果的運用を促進する。</li> </ol> <p>【読書習慣の形成と感性教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。</li> <li>芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。</li> <li>探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を援助する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善に向けて、探究型学習を取り入れた授業の互観を年3（内、他教科を1回）以上行う。</li> <li>毎日の家庭学習時間を、学年（年次）＋2時間以上を目標に取り組ませる。</li> <li>探究型学習の成果として、全国レベルの大会での入賞5件以上をめざす。</li> <li>読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。校内読書感想文コンクールへの積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。</li> <li>教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>互観授業については達成できなかった人もいたが、授業改善は積極的に取り組まれている。全国大会レベルの入賞目標は未達成である。</li> <li>各学年（年次）とも家庭学習時間がやや不足し、学年（年次）＋2時間以上の目標時間は達成できなかった。</li> <li>読書課題提出率100%を達成した。教科学習における図書館利用は昨年より微減した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動を基礎学力の向上につなげられるよう、今後も全職員体制で取り組んでいく。</li> <li>学習時間調査を踏まえて、家庭学習時間の確保と課題への取り組み方についての指導及び進進者に対する手立てを行う。</li> <li>教科及び各学年（年次）との連携を図りながら更に効果的な図書館活用を進めていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を用いて、プログラミングの演習を行うなど、課題解決のためのデザイン思考方法を巧みに取り入れている。また、地域の芸術系大学からの探究型学習支援を取り入れ、本格的なカリキュラム導入が実施されている。今後も、探究型の深掘りと学力向上両方の取り組みを期待する。</li> <li>探究型学習、探究活動について熱心な取り組みが行われ、大きな特色になりつつあると感じられる。進学校、伝統校として「探究科」が牽引して学校全体のさらなるレベルアップ、活性化に期待している。</li> <li>探究型学習はスタートしたばかりであり、今後、試行錯誤しながら前進していくものと思われる。</li> </ul>
進路指導	<p>【進路指導の充実とキャリア教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した進路学習を行うため、各学年（年次）で必要な指導について共通理解をもって進める。</li> <li>超難関大学・医学部医学科への志望実現のための各教科の指導方法や研究を更に深める。</li> <li>生徒が自己の在り方や生き方を考え、自己実現に向けた進路選択・決定ができるように、「キャリア教育総合実践プログラム」に基づきキャリア教育を推進する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導・実践的教科指導について、本校の実情を踏まえ、グローバル化や他県・他校の状況を視野に入れながら、3年間を見通した指導内容や指導法の研究に努める。</li> <li>東大・京大合格者数合わせて2桁を目指す。</li> <li>医学部医学科の推薦・AO入試について研究を深め、医学部医学科現役合格者数のアップを図る。</li> <li>キャリア教育推進のため、郷土研修・首都圏研修等で他機関と十分な連携を図る。また、生徒の学ぶ力を育むため、各課・各学年と共通した認識で指導を実践する。</li> <li>学業面だけでなく、生活の様々な悩みを解消し健全な心身の発達を目指すために、保健課との連携を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の協議会に参加し、情報の交換を行い、高大接続改革により変化する入試制度を研究した。的確な情報収集が課題。</li> <li>東北大AOⅡ、AOⅢ入試、国公立医学部推薦等を積極的に利用して出願した。合格者を増やすための手立てを研究することが課題。</li> <li>1年次の「職業人インタビュー」、2年次の「郷土研修」・「首都圏研修」等、学年（年次）が主体となって実施した。今後は更に生徒が主体的に活動に参加できるようにすることが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年（年次）への3年間の指導の流れの説明を継続し、新入試に対する取組みを強化していく。</li> <li>AO・医学部推薦入試等に対し、生徒の進路志望と学力状況を的確に判断し、合格者を増やすために早期からの継続的な指導体制を作っていく。</li> <li>郷土研修は新規、首都圏研修は時期を変更したこともあり、対応が遅れることもあったが今年度のノウハウを生かし、的確な運営を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路開拓への柔軟な姿勢が見られ、生徒たちの進学意欲も高い。探究型学習を受けた生徒は大学の教育現場での即戦力となり得るため、大学進学後の伸びしろに期待できる。</li> <li>超難関大学・医学部医学科への志望実現は今後とも期待している。</li> <li>超難関大学・医学部医学科への志望実現のための指導方法や研究が一部の生徒向けに偏ってしまわないようにしてほしい。合格者の人数ばかりが学校の価値ではないと思っている。</li> <li>将来働くこと、地域の役に立てる人材になることを生徒が自覚し、会社訪問・学校訪問・職業体験を更に充実させてほしい。</li> <li>キャリア教育は郷土研修が実施され、足下にも見るべき企業や誇るべき技術があることに気付きが得られる有意義な事業と感じる。郷土愛の醸成にもつなげ。進学上京しても心に古里を持っている社会人を育ててほしい。</li> </ul>
生徒指導・特別活動	<p>【いのちの教育と生徒指導の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>かけがえない「いのち」を大切にし、自分の「いのち」、他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。</li> <li>基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。</li> <li>生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。</li> <li>社会参加の意識を高め、実践による自己実現を促す。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全を図り、交通事故ゼロをめざす。</li> <li>学校内外を問わず、いじめを許さない人間性を育み、その防止に取り組む。</li> <li>毎月の出席率平均が99.0%以上をめざす。前期において各学年（年次）の皆出席者を明確にし、1年間皆出席者を全校生の50%をめざす。</li> <li>3年間の皆出席者を3学年生徒の25%をめざす。</li> <li>部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。</li> <li>社会参加・ボランティアを促し、各種の地域・施設情報を特定掲示板で毎月定期的に紹介し、参加しやすい体制をとる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動が上位入賞を目指して健闘し、団体8種、個人11人が全国大会に出場した。</li> <li>自転車自動車が接触された事故12件、自転車での自爆事故2件、自転車と他校自転車歩の接触した事故2件である。（合計16件）</li> <li>ボランティア活動については資料提供と掲示を行い、生徒会・クラス・部活動で行っている。また、生徒会が中心となりアフガニスタンにランドセルを送るボランティア活動を実施し129個集まった。山形市福祉協議会と連携し、除雪ボランティアを行っている。</li> <li>いじめ防止に取り組み、認知件数は5月1件（解消3件）11月2件（経過観察2件）である。</li> <li>後期に入って全学年（年次）とも欠席者数が増加し、毎月の出席率平均</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動等の活動の能率化が成果に結びつくことを指導する。</li> <li>自転車の運転について、交差点での安全確認と、常に危険を察知することを指導する。特に1年生は事故が多いので、入学直後の指導の徹底に努める。</li> <li>「えがお大作戦」は、アフガニスタンにランドセルを贈るために、1個につき送料約2500円必要であり、来年度実施する場合は方法を検討する。</li> <li>いじめと疑われる事案を含め、速やかに対応する。</li> <li>家庭とも十分に連携をとりながら、今後も欠席や欠課が少なくなるように指導を進めていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間性を高める教育については、人としての正しさ、いわゆる道徳観の育成を継続してほしい。</li> <li>社会でも色々な“ハラスメント”が問題になっている。他人の痛みが理解できるたくましい精神力を若い時代から養ってほしい。</li> <li>「いのちの教育」が十分になされているか心配がある。安心して子供を通わせられる学校にしていってほしい。</li> <li>ボランティア活動や地域支援活動は多彩な印象を受ける。課外活動や部活動も重要な高校教育のファクターであるため、いっそうの充実を期待している。</li> <li>ボランティアは目的と意義を理解した上での活動となるような指導をしてほしい。</li> <li>「えがお大作戦」に係るアフガニスタンへのランドセルの輸送については、民間企業等に相談し、混載など検討したらよいのではないか。</li> </ul>

				98.8%、1年間の皆出席者数 46.3%であった。3年間皆出席者数は37.2%で目標を達成した。			
健康 安全 指導 ・ 環境 整備	<p>【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>心身の健康の自己管理と、その充実・向上を図る。</li> <li>危機管理体制を整備し、災害・事故の防止に努める。</li> <li>学習環境の整備・保全とその美化に努める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒保健委員会の「保健だより」年間5回、保健課発行の広報紙を年間10回発行して、心身の健康維持増進を図る。</li> <li>年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。</li> <li>清掃徹底日（毎週月曜日）と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。</li> <li>防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末日まで「保健だより」5回、広報紙「はあと」7回発行。SC相談日は16回実施し、生徒・保護者のべ52人の利用。清掃は良好。</li> <li>各種訓練等は計画どおり実施した。メール送受信システムの活用により、各行事等、登校時の交通機関の乱れの連絡などに有効に活用された。</li> <li>事務部と連携し、危険個所の補修・改善に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃時間の習慣化と環境衛生活動に努める。</li> <li>危機管理の重要性を再確認し、資料を作成したり、活用したりすることができるよう安全管理を徹底する。</li> <li>探究科設置、分割授業増加に伴う教室不足への対応が求められる。</li> <li>限られた予算の有効活用のため継続して節約に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフルエンザが流行している時期にも、感染者があまり増えなかったのは、指導と予防のたまものだと思う。心身ともに健康で勉学できる環境づくりに今後も取り組んでいただきたい。</li> <li>学校施設の環境に関しては、教室が狭い印象と、冷暖房設備について貧弱な印象が否めず、猛暑が増える傾向にある夏場の対応に不安を覚える。授業スペースの確保、空調面で授業環境の改善が求められる。</li> </ul>
家庭 地域 の 連携	<p>【地域連携の促進と郷土愛の醸成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習活動や社会参加活動において、積極的に地域との連携を促進する。</li> <li>地域コミュニティの一員として地域をよく知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。</li> <li>学校・家庭・地域の連携を一層深める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A総会・研修会（公開授業を実施）の出席率70%以上をめざす。</li> <li>P T A会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聞き、経営改善に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A 関係の行事は滞りなく実施し、どの行事も70%以上の出席があった。学校評価アンケート結果も報告され、課題の共有がなされた。</li> <li>1年次の「職業人インタビュー」における、地域で活躍する卒業生による講演や2年次の「郷土研修」における、県内企業・研究機関への訪問、研修を通して、郷土やまがたの現状と課題を認識し、地域貢献に対する意欲を喚起することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種アンケートや行事等を通して、保護者・地域の意見をすくい上げ、学校・家庭・地域との連携強化に努める。</li> <li>地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備をすすめ、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形に誇りを持つことを目指す指導が着実に生徒の心に届いていると思う。</li> <li>地域コミュニティの一員として地域を理解し、郷土への誇りと愛着を持った生徒を育てる教育活動を是非継続してほしい。</li> </ul>
学校 運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとり創造運動を推進し、土曜講習等に伴う代休措置の取得率100%をめざす。</li> <li>「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜講習等の代休取得率は、各学年とも100%である。</li> <li>光熱水費対前年度比(2/14現在) 電気 2.9%増加(575,569円の増) 水道 8.0%増加(253,220円の増) ガス 9.8%増加(138,808円の増) 全体 3.1%増加(967,597円の増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の効率化等を通し、ゆとり創造運動を推進する。</li> <li>職員及び生徒へ一層の節約に向け周知・啓発を行う。</li> <li>限られた予算中であるが、今後改修等の機会をとらえて、照明のLED化やトイレの節水化への対応に努める。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>光熱水道費の節約に努めていただきたい。</li> <li>企業であれば、収入が変わらないのに支出が増えるということはあってはならないことだ。2～3年後のことを考え、大幅な設備投資の予算を取るべきではないでしょうか。</li> <li>地球温暖化の学習を進めながら、気候変動と学校生活との関わりを生徒達にも意識してほしい。</li> </ul>